

上川教育研修センター発表会

# 旭川市立愛宕中学校第1学年 外国語科 学習指導案

日 時 令和5年12月12日(火) 5校時 実施  
 生 徒 旭川市立愛宕中学校1年3組 32名  
 指導者 片 山 泉

- 1 単元名 Unit8 「A Surprise Party」  
 Unit9 「Think Globally、 Act Locally」  
 Stage Activity 2 「My Hero」 (東京書籍 1年)

## 2 単元について

### (1) 本単元に関わる学習指導要領の目標および内容(抜粋)

【学習指導要領】～外国語科の目標と内容～

#### 1 目 標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

#### 2 内容のまとめ

##### (5) 書くこと

イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。

#### 3 内 容

##### (1) 英語の特徴やきまりに関する事項

エ 文、文構造及び文法事項

##### (ア) 文

c 感嘆文のうち基本的なもの

How interesting!

What a big tree!

##### (イ) 文構造

a [主語+動詞+補語]のうち、主語+be 動詞以外の動詞+

You look nice in that jacket.

{ 名詞 }  
{ 形容詞 }

##### (ウ) 文法事項

e 動詞の時制及び相など

現在形や過去形、現在進行形、過去進行形、現在完了形、現在完了進行形、助動詞などを用いた未来表現

g to不定詞

to不定詞は、以下のようなものを指導する。

<名詞としての用法>

I want to drink water.

- (2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項  
 イ 日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして得られた情報や表現を、選択したり抽出したりするなどして活用し、話したり書いたりして事実や自分の考え、気持ちなどを表現すること。
- (3) 言語活動及び言語の働きに関する事項  
 カ 書くこと  
 (ウ) 日常的な話題について、簡単な語句や文を用いて、出来事などを説明するまとまりのある文章を書く活動。

## (2) 生徒の実態

入学直後に行ったアンケートでは、「英語が好きか嫌いか」という問いに対してはほぼ同数の回答であったが、「嫌い」という回答がわずかに上回った。小学校で学習したことで「どの領域が楽しかったか」という問いでは、約4割が「話すこと」、約2割が「聞くこと」と、音声面での活動に対し好意的に感じている生徒が多いことが分かった。逆に「どの領域がつまらなかったか」という問いでは、約3割が「つまらないと感じたことはない」と回答したが、約2割が「書くこと」と回答し、「難しいと感じたこと」も約3割が「書くこと」であり、小学校段階から「書くこと」の領域に、すでに苦手意識を感じた状態で入学したことが分かった。一方で、「中学校でどの力を一番付けたいか」という問いには、4割を超える生徒が「書くこと」と回答した。「できない・苦手である」と感じている力を付けていきたいと、積極的な姿勢をもっている生徒が多いことも事実である。

2学期の最初に改めて行ったアンケート調査で、「1学期の学習において、5つの領域のどれを得意・不得意と感じるか」を調べたところ、約2割が「読むこと」の領域が得意であると回答をした一方で、約4割が「書くこと」の領域が不得意であると回答した。これは、入学当初のアンケートをもとにしながら、生徒の心理的負担を和らげるために、意図的に「話すこと・聞くこと」の音声面を重視しながら、教科書本文を「読むこと」を通じた指導を多く行った結果、「書くこと」の領域の学習や、その資質・能力の育成が不十分となり、結果的に「書くこと」の領域に対する達成感を味わったり、自己肯定感を高めたりすることができなかつたためだと考えられる。しかし、「2学期でどの領域の力を伸ばしたいか」という問いでは、4割を超える生徒が「書くこと」と答えたように、入学当初と同様、自分の苦手な部分を意識し、それを改善していきたいと考えている生徒が多くいることも事実である。

本単元開始前に行った、「書くこと」に関する傾向を調べるテストでは、「穴埋め」や「並べ替え」の問題のように、一定量の英語が与えられている問題では正答率が高かったが、「日本語を英語にする」「日本語の表を読み取って英語で書く」という、英語のヒントが与えられていない問題では誤答が目立ち、無解答や単語しか書くことができないという生徒も多かった。しかし、ヒントが与えられていない英作文でも、「自己紹介をする英文を書く」という問題は、正確な英語で書いたり、ミスはあるものの十分に意味が通る英文を書いたりする生徒が多かった。これは、1学期の早い段階から、「自己紹介」という同じ題材を、口頭による「やり取り」や「発表」を通して十分に扱ったこと、また、それを「書くこと」も継続して行ってきたことが要因と考えられる。小学校からの積み上げにより、音声面に対するネガティブな感情は少なく、また、積極的に話したり聞いたりしようとする様子も見られることから、他領域においても、音声面を活用しながら指導していくことが有効であると考えられる。

## 3 単元の目標と評価規準

### 研究内容(1) 目標と評価の一体化

- ・単元目標の明確化
- ・目標と評価の位置付け

(1) 単元の目標

自分が好きな人やあこがれの人の特徴やよさ、好きなところなどについて、世界の人に発信するために、事実や考え、気持ちなどを踏まえながら、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができる。（書くこと）

(2) 単元の評価規準

単元の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 現在進行形や感嘆文、to不定詞やlookを用いた文の特徴やきまりに関する事項を理解している。</p> <p>② 現在行われていることや感動したこと、したいことや見た目・感情などについて、現在進行形や感嘆文、to不定詞やlookを正確に用いて書く技能を身に付けている。</p>	<p>① 自分が好きな人やあこがれの人の特徴やよさ、好きなところなどについて、世界の人に発信するために、事実や考え、気持ちなどを踏まえながら、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書いている。</p> <p>② 自分が書く内容について、情報を調べたり、仲間と交流したり、教師からアドバイスをもらったりして、それらを生かしながら書いている。</p>	<p>① 世界の誰かという読み手を意識して、読み手に配慮しながら英文を書こうとしている。</p> <p>② 単元での学習や、仲間との交流で感じたことなどを、「リフレクションシート」への記入を通して、振り返りをしたり、自ら学習を調整したりしながら改善しようとしている。</p>

(白抜きの数字は総括的な評価)

(3) 単元の評価規準の設定における具体化の過程

評価規準の設定において、中学校学習指導要領解説外国語編（以下、指導要領）で示されている「目標と内容」と「学習活動」を基に、本単元で目指す生徒の姿を具体的に表した。そうすることにより、教師の評価の精度を高めたり、規準を生徒と共有してゴールイメージを明確にしたりすることをねらった。以下、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 中学校外国語／文部科学省 国立教育政策研究所」（以下、参考資料）に掲載されている「内容のまとまりごとの評価規準（例）」を基に、評価規準の具体化の過程を記載する。

参考資料「内容のまとまりごとの評価規準（例）」より		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。</p> <p>[技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題などについて、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、またはそれらを正確に用いて書く技能を身に付けている。</p>	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、書いている。</p>	<p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に英語を用いて書こうとしている。</p>
↓	↓	↓
単元の評価規準の設定と関連する「指導要領の内容」		

<p>(1) 英語の特徴やきまりに関する事項</p> <p>P39 (ア)文 c 感嘆文のうち基本的なもの How interesting! What a big tree!</p> <p>P39-40 (イ)文構造 a [主語＋動詞＋補語]のうち、主語＋be 動詞以外の動詞＋形容詞 You look nice in that jacket. Tsuyoshi felt happy when a lot of people came to his concert.</p> <p>P46 (ウ)文法事項 e 動詞の時制及び相など &lt;現在進行形&gt; Eri is opening the present. My mother is talking on the phone.</p> <p>g to 不定詞 &lt;名詞としての用法&gt; I want to drink water.</p> <p>(3)言語活動及び言語の働きに関する事項 ①言語活動に関する事項</p> <p>P67 カ 書くこと (ウ) 日常的な話題について、簡単な語句や文を用いて、出来事などを説明するまとまりのある文章を書く活動。</p> <p>P76 ②言語の働きに関する事項 イ 言語の働きの例 (ウ) 事実・情報を伝える ・説明する・報告する・発表する・描写する など</p>	<p>P28 目標 (5)書くこと イ 「日常的な話題」としては、(中略)生徒の日々の生活に関わる話題のうち、生徒自身や家族に関すること、生徒の興味・関心の対象となることや社会生活に必要なことなどである。(中略)事実や自分の考え、気持ちなどを「整理して」書くとは、事実やテーマから想起される自分の考えや気持ちなどを整理したメモなどを基に書くことである。「まとまりのある文章を書く」とは、文と文の順序や相互の関連に注意を払い、全体として一貫性のある文章を書くことを示している。(中略)出来事や事実を描写したり、考えや感想を述べたりする場合において、よりよく読み手に伝わるよう意識しながら、自分の言いたいことに最もふさわしい表現方法を工夫して書き表すことができるようにすることも必要である。</p> <p>(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項</p> <p>P53 イ 日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして得られた情報や表現を、選択したり抽出したりするなどして活用し、話したり書いたりして事実や自分の考え、気持ちなどを表現すること。</p> <p>アにおける聞いたり読んだりする受容面での英語使用を受け、それを話したり書いたりする発信面での活動へと結び付けていき、五つの領域が密接に結び付いた英語使用ができるような力を育成する必要があることを述べている。すなわち、統合的な言語使用の中で、聞いたり読んだりして得られた情報や表現を整理・吟味し、話したり書いたりするために活用することが重要である。聞いたり読んだりして得た情報のうち、どの情報を取り上げるのか、またどの表現が話したり書いたりする上で活用できるかについて考えさせることが重要であることを示している。</p>	<p>P15-16 生徒が興味をもって取り組むことができる言語活動を易しいものから段階的に取り入れたり、自己表現活動の工夫をしたりするなど、様々な手立てを通じて生徒の主体的に学習に取り組む態度の育成を目指した指導をすることが大切である。</p> <p>「コミュニケーションを図ろうとする態度」を養う上では、次に述べる「聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら」コミュニケーションを図ることが大切であり、その一つとして相手の外国語の文化的背景によって「配慮」の仕方も異なってくるのが考えられる。</p> <p>外国語の学習を通して、他者を配慮し受け入れる寛容の精神や平和・国際貢献などの精神を獲得し、多面的思考ができるような人材を育てることも必要である。</p> <p>小学校の外国語科では「他者に配慮しながら」としているのに対し、中学校においては、五つの領域にわたってコミュニケーションを図る資質・能力をバランスよく育成することや、領域統合型の言語活動を重視していることなどから、特に「聞き手、読み手、話し手、書き手」としている。</p> <p>単に授業等において積極的に外国語を使ってコミュニケーションを図ろうとする態度のみならず、学校教育外においても、生涯にわたって継続して外国語習得に取り組もうとするといった態度を養うことを目標としている。</p>
--	---	---



本單元における「主な学習活動」、評価規準の設定と関連する「児童生徒の実態」

<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在進行形や感嘆文、to不定詞やlookの学習の中で、実際にそれらを使って英文を書く活動。</li> <li>・例えば、「ネット上の動画にコメントを書く」というような場面で、現在進行形や感嘆文、to不定詞やlookを用いて英文を書く活動。</li> <li>・上記文法事項を使用するのが望ましい場面で、文構造および文法事項を正しく使用しながら英文を書く活動。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな人やあこがれの人の特徴やよさ、好きなところなどを、世界の人に発信をする（例えば、「ネット上の動画にコメントを書く」）ために、英文を書く活動。</li> <li>・自分で調べた情報や、仲間との交流、教師からのアドバイスなどから得られた情報を、自分の文章をよりよくするために、どのように活用できるかを吟味し、英文を書く活動。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の誰もが読むことができるということを前提に、「読み手」を意識して、英文を書く活動。</li> <li>・単元での学習や、単元の終わりでの自分の姿を具体的にイメージするために、単元の見直しをもつ活動。</li> <li>・「リフレクションシート」を用いて、自ら学習を調整しながら自分の学習を振り返り、改善しながら行う粘り強い学習活動。</li> </ul>
--	--	---



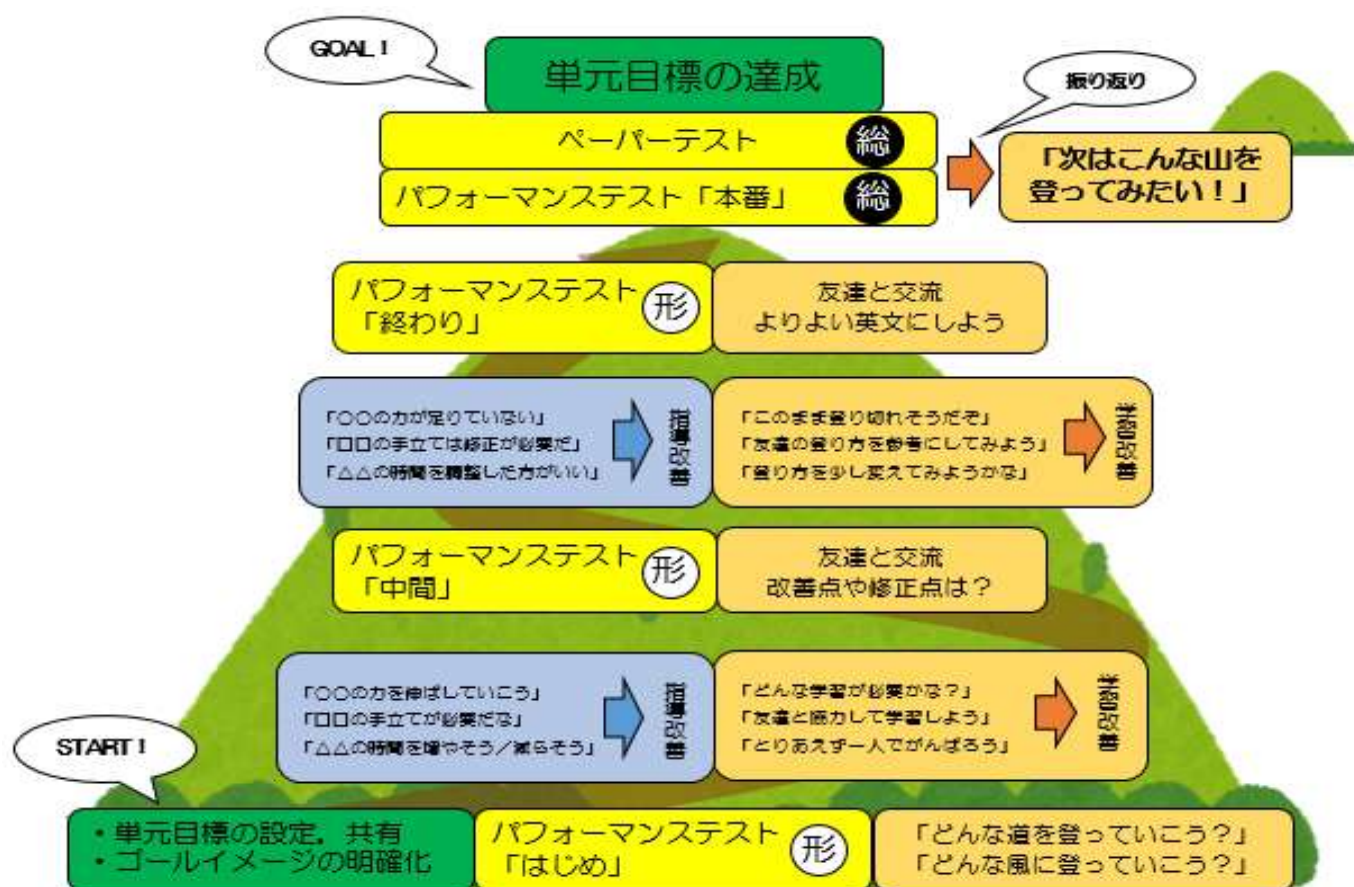
3(2) 単元の評価規準

4 資質・能力の確実な育成

4-1 単元全体のイメージ図

		時数	知技	思判表	主体
ペーパーテスト, 振り返り		19			
パフォーマンステスト「本番」		18			
読むこと, 話すこと[やり取り]		17		形②	形②
パフォーマンステスト「終わり」		16		形①	形① 形②
Unit9	教科書を使いながら, 英文の改善を重ねる。	10~15	形①	形①	形① 形②
読むこと, 話すこと[やり取り]		9		形②	形②
パフォーマンステスト「中間」		8		形①	形① 形②
Unit8	教科書を使いながら, 自身の英文を書く準備をする。	2~7	形①	形①	形① 形②
パフォーマンステスト「はじめ」		1		形①	形① 形②

(白抜きの数字は総括的な評価)



4-2 研究内容(2) 指導計画・評価計画

- ・単元構成の工夫
- ・形成的な評価の充実

(1) 単元の指導計画について

① 内容のまとまりを意識した「単元の一体化」

第1学年2学期において、教科書の単元ごとのメインとなる領域は、Unit 6では「話すこと [発表]」、Unit 7では「話すこと [やり取り]」、Unit 8では「話すこと [発表]」、Unit 9では「書くこと」となっていて、2学期の学習のまとめである Stage Activity 2では「話すこと [やり取り]」がメインの活動となっている。全ての単元において、各領域を統合的に活用することが大前提ではあるが、教科書の設定通りの言語活動だと、生徒の多くが感じている「書くこと」の領域の力を育成するには十分ではないと考えた。

従来の指導計画では、Unit 6～Unit 8の学習が全て終わった後に、それらのまとめとしての言語活動 (Stage Activity 2) が行われる。しかし、そのような計画では、まとめの言語活動にかけられる時数が少なく、自分の考えを深めたり、仲間と協働したりして、よりよくすることが難しい。そのため、本単元では、Unit 8と Unit 9を「書くこと」を指導する内容のまとまりとして捉え、一つの大きな単元として構成した。また、最終課題として Stage Activity 2を改変し、「自分が好きな人やあこがれの人の特徴やよさ、好きなところなどについて、世界の人に発信するために、事実や考え、気持ちなどを踏まえながら、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書く」と設定した。そうすることで、生徒は自分自身の興味・関心に応じたそれぞれの課題に取り組み、その達成のための見通しをもち、自ら学習を調整しながら学習を進められると考えた。

## ② 課題を改善していくことができる「英作文活動【形成・総括】」の設定

単元の「はじめ」「中間」「終わり」に、同じ「書くこと」についての英作文活動を設定する。「はじめ」は、現時点での自分の力で文章を書くことで、現状を知るとともに、どんな力が必要か、どのような学習をしていきたいか、という単元を通じた学習の意欲付けを目的とする。「中間」は、単元の前半部分（Unit 8）で調べたり学習したりしたことを活用し、「はじめ」からの成長を実感すると同時に、さらに改善するためにはどのような工夫ができるか、ということを考えることを目的とする。そして、「終わり」は、単元のまとめとして、「中間」から単元の後半部分（Unit 9）で学習したことを生かしながら、本番に向けて完成度を高めていくことを目的とする。さらに、単元全体を通して、自分の力で書くだけでなく、仲間と協働しながら活動を進めることで、他者の意見を取り入れたり、自分の考えを再構築したりすることができるようにする。こうすることで、自分の文章を客観的に捉え、自分の力で改善していくことを促し、資質・能力の育成を目指す。また、自分の文章が改善されていくことを実感することで、「書くこと」に対する意欲を高めていくことを期待する。

## ③ 「書くこと」を意識した、スモールステップの「繰り返し学習」の設定

最終的には「まとまりのある文章」を書くことが目標となるが、生徒の実態から、「書くこと」そのものに対する苦手意識がある。そのため、繰り返しを意識させ、単元を通して「書くこと」の活動を継続的に位置付け、短時間の活動を複数回行う。「簡単な語句や文を用いて正確に書く」ことを基本に、内容やテーマを変えながら、活動のレベルを簡単なものから難しいものへ、文の単位から長い文章へと質を高めていく。また、「まとまりのある文章」を意識し、文と文のつながりや前後関係等を意識した英作文活動を取り入れる。そうすることで、自分の力で英文を書けたという達成感や、もっと長い文章を書いてみたいという意欲を高め、主体的に学習に取り組めるようにする。

## ④ 各領域を統合的に活用した、言語活動の充実

生徒の実態から、「話すこと [やり取り]」や「話すこと [発表]」を通して、音声で十分に練習した内容は、「書くこと」においても定着している様子が見られた。そのため、「書くこと」を最終言語活動とするが、他の領域の活動を通して、それらを「書くこと」につなげられるようにする。「読むこと」による文字情報をはじめ、音声を用いたコミュニケーション活動も重視し、人から聞いたり、やり取りしたりした情報を「書くこと」へと生かしていくような学習を行う。他者との関わりを重視して、「中間」と「終わり」の「英作文活動【形成】」の次時に、仲間が書いた文章を「読むこと」を通して感じたことや疑問点を相手に伝えたり、逆に自分の文章に生かしたり、仲間や教師と「やり取り」をして上手く伝えられなかったことや相手から質問されたことなどを、その後の自分の「書くこと」の修正に加えたりできる時間を設定する。

## (2) 単元の評価計画について

「知識・技能」の評価については、毎授業の中で行う穴埋めや並べ替え、英作文など、実際に単語や語句、英文を「書くこと」の活動において、学習した文法事項を正しく使用することができるか、形成的な評価を行う。最終的に「まとまりのある文章」につなげていくために、「書くこと」のレベルを徐々に上げていき、自分の達成具合や成長具合を実感できるようにする。また、単元の最後に行うペーパーテストにおいて、実際に技能を身に付けることができるかどうかについて、総括的な評価を行う。

「思考・判断・表現」の評価については、単元のはじめに設定した自分の課題に取り組む活動において、実際に英文を書いている様子から、形成的な評価を行う。単元の「はじめ」で書いたものを「中間」で書くものへ、そして「中間」で書いたものを「終わり」で書くものへと、どのように生かしているかについて、形成的な評価を行う。さらに、領域統合型な授業を意識し、自分自身で考えるだけでなく、仲間の文章を読んで感じたこと（「読むこと」）や、仲間と交流したこと（「話すこと [やり取り]」）などをもとに、自分の作品をよりよくしようとしている姿についても、形成的な評価を行う。また、単元の最後に行う「英作文活動【総括】」で、実際に生徒が書いた文章から総括的な評価を行う。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、授業への取組や、実際に英文を書く活動において、「リフレクションシート」を用いて、学習の見通しをもったり、毎時間の学習を振り返ったりしながら、自ら学習を調整したり、粘り強く学習に取り組んだりする様子から、形成的な評価を行う。また、最後の「英作文活動【総括】」において、実際の英文を書こうとしている様子や、「リフレクションシート」への記述等から、総括的な評価を行う。

なお、総括的な評価の際には、評価のブレをなくし、より正確に生徒の達成状況を見取るために「ルーブリック」を作成する。作成の際には、妥当性・信頼性の向上のため、他教員と情報を共有し、よりよいものを作成することに努める。

## 4-3

### 研究内容(3)個別最適な学び、協働的な学び

#### ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

#### (1) 指導の個別化について

全ての生徒が一定の目標を達成し、学習内容を確実に定着できることを目指し、生徒一人一人の特性や学習進度・学習到達度等に応じて、重点的な指導や指導方法・教材の工夫を行う。

- ・毎授業に学習の内容や形態を、生徒自らが考え、選択することができるような時間を設定することで、自分の学習状況や到達状況に応じて、自分の英文をよりよくするために必要な学習に取り組むことができるようにする。
- ・英作文をするうえで、生徒の「ヒント」となる情報を、クラスルームや共有ドライブ等を活用してまとめておく。「ヒント」は、文を書くこと自体が困難な生徒には、英作文で使えそうな基本的な語句や用法がまとめられたものを提供する。また、ある程度文章を書くことができる生徒には、自分の気持ちや考えを表現する方法や、文と文を効果的につなぐ方法、文章をより長くしていくための工夫点などを提供する。そうすることで、生徒自身が自分に必要な情報を自由に引き出せるようにする。
- ・iPad の検索機能を活用し、分からない単語や表現を調べたり、英文を書く際の補助として、タイピングで打ち込み、下書きを作ってから紙に書き写したりすることができるようにする。その際に、オートコレクトや予測変換を活用させたり、必要に応じて翻訳アプリケーションを効果的に活用したりすることができるようにする。そうすることで、学力が低位な生徒や、「紙に鉛筆で書くこと」自体を苦手とする生徒の学習が止まってしまうないようにする。
- ・「リフレクションシート」を教師と生徒とで共有し、毎時間フィードバックを与えられるようにすることで、それぞれの生徒の学習状況を見取り、生徒一人一人に応じた評価や指導ができるようにする。



(2) 学習の個性化について

生徒一人一人の興味・関心に応じた学習課題を設定し、それぞれの課題の達成に向けて、学習を深めたり広げたりすることができるように、学習活動や学習課題の提供を行う。

- ・自らが興味・関心のある事柄（本時は「好きな人」）について、単元を貫く学習課題を設定し、その達成に向けた様々な言語活動を行う。そうすることで、生徒一人一人の学習意欲を高め、主体的に学習に取り組むことができるようにし、資質・能力を効果的に育成できると考える。
- ・何のために、どのような設定で、何に向けて書くのか、という「目的・場面・状況」を多様に設定する。生徒自らが、書く「目的・場面・状況」を選択したり設定したりすることで、それぞれが学習したい内容や話題を考え、選びながら学習を進められるようにする。
- ・学習を進める過程で、自分が設定した課題そのものや、それに向けた取り組みが不十分であると感じたり、変えてみたいと考えたりしたときには、自分の興味・関心に応じて、自由に修正したり、改善したりすることができるようにする。

(3) 協働的な学びについて

異なる考え方が組み合わさり、よりよい学びを生み出すことができるように、多様な他者と協働しながら、学習を進められるようにする。

- ・学習形態を自ら選択し、仲間と協力しながら、よりよいものを目指して学習に取り組む。生徒が自ら必要感を感じて交流することを選択できるようにするために、仲間と交流したり、協力したりしなければ、達成できないような活動を設定する。例えば、インタビュー活動やインフォメーションギャップのある活動をした後に、「書くこと」の活動を取り入れる。そうすることで、仲間と交流や協働をすることのよさを実感し、教師からの指定や強制がなくても、仲間と交流しようとする姿勢が育つことを期待する。
- ・「書くこと」は個人的な作業になることが多いが、領域統合型授業を取り入れ、例えば、仲間が書いた文章を「読むこと」や、読んだものについて「話すこと [やり取り]」を通して、感じたことや考えたこと、疑問点や改善点についてピア・フィードバックを与え合うなど、ほかの領域を活用しながら「書くこと」の資質・能力の育成につなげていけるようにする。

4-4 単元の指導計画と評価計画の具体

	時数	学習活動（全19時間）	評価（白抜きの数字は総括的な評価）			
			知	思	態	方法
単元の導入 PT 「はじめ」	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の見通しをもち、それぞれの学習課題を設定する。</li> <li>【英作文活動「はじめ」】</li> <li>実際に単元最後の課題と同じものに取り組み、自分の現状把握とゴールイメージをもつ。</li> </ul>		①	① ②	「ワークシート」・ 「リフレクションシート」

Unit 8	2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Unit 8 で学習する本文や文法事項、新出単語等を確認し、Unit 8 の見通しをもつ。</li> <li>・現在進行形を用いて、「今していること」の表現の仕方を理解する。</li> <li>・現在進行形を用いて、「今していること」をたずねたり、答えたりする仕方を理解する。</li> <li>・感嘆文を用いて、感動を表す表現の仕方を理解する。</li> <li>・教科書本文を復習し、ストーリーや表現を理解する。</li> <li>・Unit 全体で学習したことを確認する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>教科書本文に関わる学習をしながら、パフォーマンステストに向けた学習も、自分の進捗や状況に応じて学習を重ねる。</p> </div>	①	①	① ②	行動観察・「ワークシート」・「リフレクションシート」
PT 「中間」	8 ・ 9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【英作文活動「中間」】自分の課題について、Unit 8 までの学習を活用して、よりよい文章を目指してもう一度書く。</li> <li>・前時に書いたものを仲間同士で交流し、感想や質問を伝え合って、どんなところを改善したらよいかを考えたり伝えたり、仲間のよい所を取り入れたりする。</li> </ul>	①	①	① ②	<p>「ワークシート」・「リフレクションシート」</p> <p>行動観察・「ワークシート」・「リフレクションシート」</p>

Unit 9	10 ・ 11 ・ 12 ・ 13 ・ 14 ・ 15	<ul style="list-style-type: none"> <li>Unit 9 で学習する本文や文法事項、新出単語等を確認し、Unit 9 の見通しをもつ。</li> <li>to 不定詞（名詞的用法）を用いて、「したいこと」や「しようとする事」の表現の仕方を理解する</li> <li>to 不定詞（名詞的用法）を用いて、たずねたり、答えたりする仕方を理解する。</li> <li>look+形容詞を用いて、「～に見える」という表現の仕方を理解する。</li> <li>教科書本文を復習し、ストーリーや表現を理解する。</li> <li>Unit 全体で学習したことを確認する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>教科書本文に関わる学習をしながら、パフォーマンステストに向けた学習も、自分の進捗や状況に応じて学習を重ねる。</p> </div>	①	①	① ②	行動観察・「ワークシート」・「リフレクションシート」
PT 「終わり」	16 ・ 17 (本時)	<p>【英作文活動「終わり」】</p> <p>中間に書いたものに、Unit 9 で学習したことを活用して、さらに手を加えて英作文する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前時に書いたものを仲間同士で交流し、感想や質問を伝え合って、さらに改善を図る。</li> </ul>	①	①	① ②	「ワークシート」・ ② 「リフレクションシート」
Stage Activity 2	18 ・ 19	<ul style="list-style-type: none"> <li>英作文活動「本番」（思考・判断・表現）</li> <li>ペーパーテスト（知識・技能）、単元の振り返り 単元目標の達成度や学び方の振り返りを行い、自己を把握し、次の単元の学習へとつなげようとする。</li> </ul>	②	① ②	① ②	「パフォーマンステスト」・「リフレクションシート」  「ペーパーテスト」・「リフレクションシート」

5 本時の学習 (19 時間扱い 17/19)

(1) 展開

1 単位時間の学習課題 **白抜き** 研究との関わり

教師の指導と生徒の活動	生徒の思考
1 あいさつ	
2 前時の振り返り <ul style="list-style-type: none"> <li>前時に書いた文章と反省を振り返ることにより、現在の状況を把握し、まだ改善の余地があるということを認識する。</li> </ul> 3 本時の見通し <ul style="list-style-type: none"> <li>グッドモデル(生徒作)とバッドモデル(教師作)を提示し、「よりよい文章」とはどのようなものかを共有することで、作文を改善するという本時のゴールを明確にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間から、さらに工夫した文章が書けた。</li> <li>書いてはいるが、これで完成だろうか。⇒改善できる部分がありそうだ。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>グッドモデルは、事実だけでなく、自分の考えや気持ちも入っている。話の流れにつながりがあり読みやすい。</li> <li>バッドモデルは、その人の情報がただ並んでいるだけ。順番がバラバラ。⇒グッドモデルのような英文を書けばいいんだ。</li> </ul>
<p>チェックリスト (「よりよい文章」の条件)</p> <p>①事実の羅列だけでなく、自分自身の考えや意見も入っているか？ →主語が he や she だけでなく、I を用いている (一人称の人称代名詞を用いている)。</p> <p>②話の流れにつながりがあり、まとまりのある文章になっているか？ →英文の順番が、関係のある話題が並ぶようになっている。</p>	
4 それぞれの学習状況の共有 <ul style="list-style-type: none"> <li>前時に書いた文章を自分でチェックし、Jamboard で共有することにより、自分と仲間の状況を把握して、必要に応じて協働的な学びが生まれるようにする。(各々で学習を進める中で、随時自分の状況を更新するようにする。)</li> <li>本時の終末での具体的な姿を想像し、そのためどのような学習をすればよいかをイメージすることにより、その達成のための学習を、自ら考え選択して進められるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇〇さんも同じ状況のようだから、一緒に学習したい。</li> <li>□□さんは、自分ができていないところができているようだから、教えてほしい。</li> <li>自分はできているから、同じくできている△△さんと、互いに読み合いたい。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の気持ちが入った文を書きたい。</li> <li>英文を並べる順番を工夫して、読みやすい文章にしたい。</li> </ul> <p>⇒自分の気持ちを伝えるために、どんな英語を使えばいいだろう。仲間はどうしてその表現を使っているのだろう。</p> <p>⇒自分が書いた文章の話の流れが、まとまりのあるものになっているだろうか。仲間を読んでもらって感想が欲しい。</p>
<p style="text-align: center;"><b>「終わり」で書いた英文を、よりよいものにしよう。</b></p>	

<p>5 個々の進度に応じた学習（前半）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の学習状況や学習したいことに応じて各自で学習を進めることができる環境を設定することにより、生徒が自ら考え選択し主体的に学習に取り組むことができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇〇さんが同じような人のことを書いていたから、読みに行こう。</li> <li>お互いに読み合って、感想や思ったことを伝えたり、一緒に作業したりしたい。</li> <li>ある程度書けていると思うから、英語が得意な〇〇さんや先生に、自分の文章を読んでもらって、感想が欲しい。</li> </ul>
<p>6 個々の進度に応じた学習（中間）～全体交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前半の学習状況を確認し、本時のゴールの達成状況を認識させる(振り返る)ことにより、後半の時間で、生徒自身が内容面と学習方法の見通しをもつことができるようにする。</li> </ul> <p>◇内容面：自分の考えや気持ちを表現したり、まとまりのある文にしたりするには、どうしたらよいか。</p> <p>◆学習方法：誰と交流したらよいか。自分はどうのようなことをしなければならぬか。</p>	<p>◇like、love、want toなどの自分の気持ちを伝える表現を、文章の中に入れるとよい。</p> <p>◇つながりの悪い英文があるから、この文は書かないで、別の文を書こう。</p> <p>◆同じ種類の人について書いている〇〇さんと一緒に学習したら、ヒントがたくさん集まったから、引き続き協働したい。</p> <p>◆〇〇さんの英文が、まとまりがあって読みやすいと感じたから、もう一度読ませてもらって、自分が使えるような文を考えよう。</p> <p>⇒後半の学習の見通しが立てられた。</p>
<p>7 個々の進度に応じた学習（後半）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前半の学習や中間の交流で確認したことを活用することにより、自分の英文をよりよくして、本番のテストに向けて完成に向かうことができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あとは自分で書けるから、自分の力で書き進めよう。</li> <li>もう少し仲間と交流して、よりよくするヒントを集めよう。</li> <li>これでよいかな。誰かに読んでほしい。</li> </ul>

**<個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実>**

予想される生徒のつまずきと手立て

- どのように工夫すれば、「よりよい文章」を書くことができるか分からない。
  - 友達と交流したことを、自分の英作文にうまく生かすことができない。
- ⇒これまでに学習してきたことや、英作文をする上での「ヒント」をデータ化して共有しておき、自由に引き出して活用することができるようにする。
- ⇒前時までの作文をデータ化して共有し、いつでも自由に読んで参考にできるようにする。
- ⇒それぞれがどのような状況で学習に取り組んでいるかを共有することで、必要に応じて交流をしたい友達の所に行って一緒に学習したり、アドバイスやヒントをもらったりすることができる学習環境を設定する。

<p>&lt;本時の評価（思考・判断・表現②）&gt; <b>形成的な評価</b>          対象：自分が書く内容について、情報を調べたり、友達と交流したり、教師からアドバイスをもらったりして、それらを生かしながら書いているか。          場面：自由進度学習で、それぞれが自分の学習に取り組んでいる場面。          方法：行動観察、ワークシート（英作文）、リフレクションシートへの入力</p>	
<p>8 本時の振り返り、次時に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リフレクションシートに、本時の学習の振り返りや今後の学習への改善点等を入力することで、自ら学習を調整しながら学習を進めていくことができるようにする。</li> <li>次の時間に、これまでの学習のまとめとして、まとまりのある文章を書く（英作文活動）ことを確認することで、次時に向けてモチベーションを維持・向上できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最初はその人のことだけしか書いていなかったけれど、I like の文を入れることで、その人のどんなところが好きなのかを書くことができた。</li> <li>最初は書いた英文を適当に並べていたけど、順番を工夫して、その人の情報と自分が好きなこととのつながりが生まれて、読みやすい英文にできた。</li> <li>仲間と協働することで、前回書いた文章がさらによくなったから、今後の学習でも意識したい。</li> </ul>
<p>&lt;本時の評価（主体的に学習に取り組む態度②）&gt; <b>形成的な評価</b>          対象：本時の学習で「どんなことを工夫して英文を書くことができたのか」や、「自分で決めた学習のどんなところが良かったか」などについて振り返ることで、自己調整を図りながら学習を改善しようとしているか。          場面：振り返りの場面</p>	

(2) 板書

◎パフォーマンステスト「本番」に向けて、自分の書いた英文を **Tuesday, December 12th, snowy** さらによりよいものにしよう。

≪「よりよい文章」とは？≫  
 自分の考えや気持ちが入っている。話の流れにつながりがある。

**単元の学習の流れ**

- ・パフォーマンステスト「はじめ」
- ・Unit 8の学習
- ・パフォーマンステスト「中間」
- ・友達と交流して、よりよくしよう
- ・Unit 9の学習
- ・パフォーマンステスト「終わり」
- ◎友達と交流して、さらによりよくしよう
- ・パフォーマンステスト「本番」
- ・ペーパーテスト、振り返り

【「よりよい文章」にするために】

2つのチェックポイントを達成しよう。  
 そのために、どんな学習をしたらいいだろう。

【ここまでの学習を振り返ろう】

- ・文章の内容  
 ⇒like, love, want to などを使う  
 ⇒この順番でよいだろうか？
- この英文は必要かな？  
 違う文を書いてみる？
- ・学習の方法  
 ⇒友達とたくさん交流できている。  
 ⇒別の人とも話をしてみたい。

さらにレベルアップ！

- ・他に使えるような表現を調べて使ってみる。
- ・事実と自分の考えをリンクさせる。
- ・単元で学習した表現を使う。
- ・他の場面設定では、どのように書く？

**【振り返りの視点】**

- ・どんなことを工夫して英文を書くことができましたか？
- ・今日の自分の学習を振り返って、良かったことはどんなところでしょうか？

(3) 英作文活動【総括】（次時）の評価基準（ルーブリック）

	思考・判断・表現①	主体的に学習に取り組む態度①
a	bの条件を満たしながら、 ・様々な表現で、自分の考えや気持ちを表している工夫が見られる。 ・事実と自分自身の考えや気持ちとの関連性が表現されている。 ・各自が設定した目的・場面・状況に応じて、伝えたい内容を書いている。 などといった、さらなる工夫をしている。	aのような、さらなる工夫をしようとしている。
b	次の二つの条件を満たしている。 ①人物の特徴やよさ、好きなどころなどについて、事実の羅列だけでなく、自分自身の考えや気持ちも含まれている。 ②英文の順番が整理されていて、文章構成につながりや一貫性がある。	bの二つの条件を満たして、文章を書こうとしている。
c	bに達していない。	bに達していない。

	思考・判断・表現②	主体的に学習に取り組む態度②
a	bの条件を満たしながら、「どうしてその情報やヒントなどを活用しようと考えたのか」や「どんな点が活かせると考えたのか」などについて、考えて書いている。	bの条件を満たしながら、「どうしてその情報やヒントなどを活用しようと考えたのか」や「どんな点が活かせると考えたのか」などについて、考えて書こうとしている。
b	自分が調べた情報や、仲間との交流で得たヒント、教師からのアドバイスなどを生かして、文章を書いている。	自分が調べた情報や、仲間との交流で得たヒント、教師からのアドバイスなどを生かして、文章を書こうとしている。
c	bに達していない。	bに達していない。

## 6 研究協議の主な内容

### (1) グループ協議の内容

#### 【研究内容(2) 指導計画・評価計画】

- ・単元を通してスプレッドシートを活用し、その時点での自分が書いた文章を蓄積していくことで、生徒が自身の成長を客観的に感じることができるよう工夫がなされていた。
- ・単元の初めにゴールの姿を明確にし、毎回の授業でスプレッドシートを活用して自己評価をすることで、自らの学びを調整しながら学習を進めることができていた。
- ・単元計画の中で形成的な評価を行う場面を整理し、継続して行っていたことで、自由進度学習の中でも生徒個々のニーズにあった指導・支援を行うことができていた。

#### 【研究内容(3) 個別最適な学び、協働的な学び】

- ・生徒が自身の学習状況(課題に対する達成率)を Jamboard で整理することで、見通しをもって学習を進めることができていた。また、達成率を全体で共有することで、自己課題を解決するために適切な仲間に相談しに行くことができ、協働的な学びを促すことにつながっていた。さらに、それぞれの生徒の形成的な評価を教師が把握することで適切に個別の指導を行うことができていた。Jamboard をリアルタイムで動かす事で上記の効果をより一層高めることができると考えられる。
- ・授業の導入でグッドモデルとバッドモデルを提示することで、本時で目指すべき「よい文章」の2つの視点(「I(自分)」が主語の文章を追加する点、文章全体でまとまりをもたせる点)が明確になり、目標に向けて集中して活動できるとともに、対話する際の視点が共有できていた。また、振り返りも適切に行うことができていた。

### (2) 指導主事の助言

〈上川教育局 義務教育指導班 指導主事 蒔田 和樹〉

#### ① 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実について

- ・授業づくりにあたっては、ICTをツールとして活用しながら、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことが大切である。授業改善のポイントは、次の3点が挙げられる。
  1. 児童生徒が課題を選択できる授業
  2. 児童生徒が学習の進め方を選択できる授業
  3. 児童生徒が誰と学ぶかを選択できる授業まずは、取り入れやすい単元や題材で行うとよいのではないか。
- ・本時の授業では、自由進度学習がポイントになっていた。これまでは教師が主語となっていることが多かったが、これからは、児童生徒の目線になって授業をつくるのが大切である。本時の授業では、生徒目線になって用意された手立て(ヒントやワークシート)が多く見られた。インターネットによる検索やクラウドの活用など、ICTの利点を生かし、多様な教材を生徒が活用できる環境がつけられており、生徒の主体的な学びにつながっていた。
- ・自由進度学習などの個別最適な学びには、慣れが必要であり、あらゆる教科で「学び方」を身に付けさせていくことが大切である。そのためには、児童生徒が学習を進め



る中で、自由に課題を変更したり、内容を修正したりすることができるなど、児童生徒が試行錯誤したり、自己調整を働かせたりすることができる単元計画が必要であり、教師が授業を変えていく必要がある。

- ・またどういふところは自分で、どういふところは他者参照で行うのかなど、児童生徒の目線で授業づくりをするとともに、活動の意図を明確にしておくといふ。
- ・個別最適な学びによつて、生徒は協働的な学びに参加することができ、協働的な学びによつて自分の考えを深め、個別最適な学びが充実するといふ互惠関係が個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の本質であり、その実現を目指した授業づくりについて、今後も実践を重ねていただきたい。

#### 〈旭川市教育委員会 教育指導課 主査 柳澤 麻弥〉

##### ① 単元構成の工夫について

- ・本実践では、「書くこと」の領域をテーマとし、2つの単元をまとめていた。書くことが苦手であるといふ生徒の実態を踏まえ、複数の単元を一体化させた効果的な構成であるといえる。書くことは生徒が苦手意識をもちやすい領域である。また、スモールステップの繰り返し学習を取り入れた構成も効果的だった。

##### ② 評価計画について

- ・パフォーマンステストは、日々の活動の中で身に付けた知識や技能を發揮できるように活動を設定することが大切である。今回は、どれくらい定着しているかを測るためのテストであった。パフォーマンステストは、色々な練習を行い、知識や技能を身に付けた後、その知識や技能を活用できているかどうかを測るものである。本実践では、初めは書けなかった子も工夫や手立てによつて、書けるようになってきたのではないかと思う。

## 7 事後分析

## (1) 目標と評価の一体化について

〈成果〉

- ・「英語使用の必然性」を明確に想起できるよう、「世界の人に発信するために」という目的・場面・状況を設定した。生徒の日常生活において、英語を用いて自分の考え等を発信する経験はほぼないため、「インターネットへの英語コメントの書き込み」を具体例として導入場面で紹介し、「自分でも実際にできるかもしれない」という意欲をもてるようにした。また、それ以外にもどのような使用場面が考えられるかを生徒とともに考え、実際に生徒から出された意見を、場面設定の一つとして取り上げた。自分が書きたい場面を自ら設定することで、英語を書くこと目的をはっきりともつことができた。
- ・評価規準を具体的な生徒の姿で示すことで、最終的に、生徒がどのようなことができればよいのかということが明確になった。例えば、「考え、気持ちなどを踏まえながら」という規準を設定することで、調べた客観的な情報だけでなく、その人物に対する自分の思いや好きであることを表現することが必要となり、どうすればそういう表現をすることができるのか、ということを生徒自らが考え、工夫をすることができるようになった。

〈課題〉

- ・「単元終了時の具体的な姿」として評価規準を生徒と共有したが、振り返りの言葉や生徒の英作文から、「どのような文章を書けばよいのか」や、「自分の文章の改善点はどこか」ということについてははっきりと分かっていない生徒もいた。このことから、本時では「具体的な姿」を全体場で共有したが、単元を通して、全生徒に「どのようなことができればよいのか」ということを自分ごととしてイメージさせることが不十分だったと考えられる。自分ごととしてのゴールイメージを明確にもたせ、振り返えらせた中で、適宜フィードバックを与え、自分の学習をメタ認知しながら学習できるようにする必要があった。

## (2) 指導計画・評価計画について

## ① 指導計画

〈成果〉

- ・単元構成の工夫として、2つの単元を1つにまとめ、単元としての学習時間を十分に確保した。そうすることで、生徒が自分の課題と確実に向き合い、自分で考えながら学習改善を行うことができた。
- ・単元を通して「同じ課題」に取り組み続けたことで、多くの生徒が自分の書いた文章が改善されていくことを実感することができた。また、新たに学んだ文法や表現を文章作成に活用させることで、最後まで意欲的に学習課題に取り組むことができた。

〈課題〉

- ・英作文活動として、生徒は同じ課題に取り組み続けたが、同じテーマをよりよく練り上げていくという課題だけでは、「思考力、判断力、表現力等」の育成を目指したものであるとして不十分であった。生徒は、表現の仕方や文章を覚えることで文章を修正・改善していったが、資質・能力としては、知識及び技能に重きが置かれた活動となってしまった。話題を変えながら複数回の課題に取り組みさせる中で資質・能力を育成し、単元終末の総括的な評価を行う場面において、身に付けた資質・能力を発揮させながら「自分の好きな人やあこがれの人」についての文章を書くという活動がより適切であると考えられる。
- ・領域統合型授業を目指し、「読むこと」や「話すこと（やり取り）」を通して、「書くこと」の領域の力を育成することを意識した。しかし、当初想定した以上に、「話すこと（やり取り）」をしながら、「書くこと」の学習に取り組むことが難しく、3つの領域を関連付けて学習を進めることができなかった。会話を通して伝えられなかったことや、仲間とのやり取りの中で質問に答えられなかったことについても、自分の英作文の中で表現させる場面をより多く設定する必要があると考える。

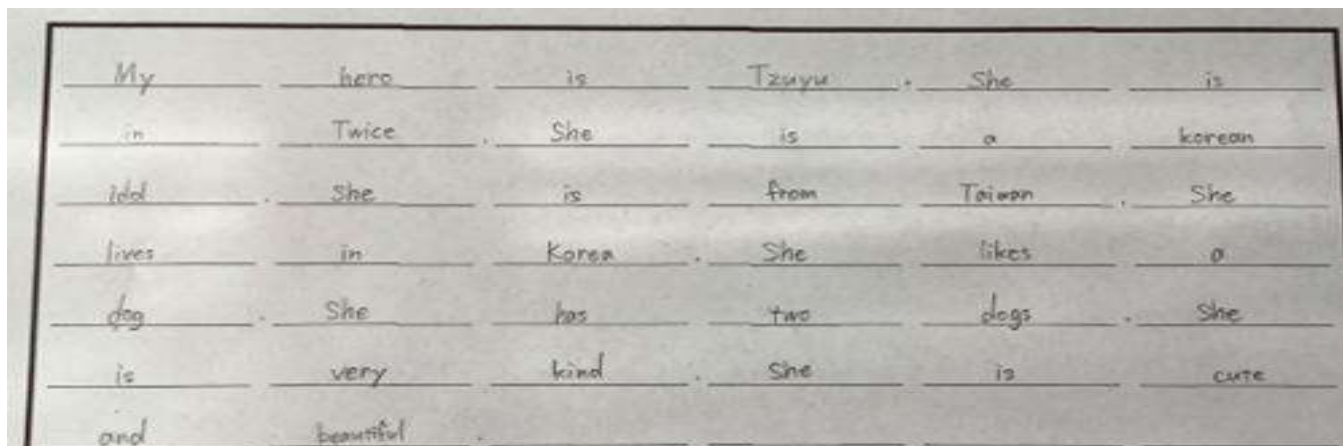
## ② 評価計画

〈成果〉

- ・「リフレクションシート」を作成し、毎時間学習の振り返りを行った。そうすることにより、生徒が自分の学習状況を把握し、自ら学習を調整しながら学習を進めていくことができるようにした。生徒は一人一人、自分が今どのような状況なのかを把握し、単元の目標を達成するためにどのような学習が必要なのかを常に考えながら学習を進めることができた。また、教師から必要に応じて個に応じたフィードバックを行うことで、学びの修正や改善をしやすいとした。
- ・「リフレクションシート」をデジタル化することで生徒の学習状況を容易に把握し、形成的な評価を適切に行うことができた。単元開始時は機器の操作の点から時間がかかり、十分に振り返りを行うことができない生徒もいたが、習熟とともに、短時間でしっかりと振り返ることができるようになった。また、教師からの評価もしやすく、必要に応じてコメントを返すことで、生徒と学習状況を共有することにつながった。
- ・3回の英作文活動（はじめ・中間・終わり）の後に、これまでの学習を振り返る時間を設定した。自身の学習の反省をし、次の英作文活動までにどのように学習を進めるのか、不十分な点は何なのか、ということを全員が認識できるようにした。そうすることで、生徒が自らの学習状況に応じて学習を進める際に、どのような学習をすればよいか明確になり、生徒一人一人が主体的に学習を進めることができた。

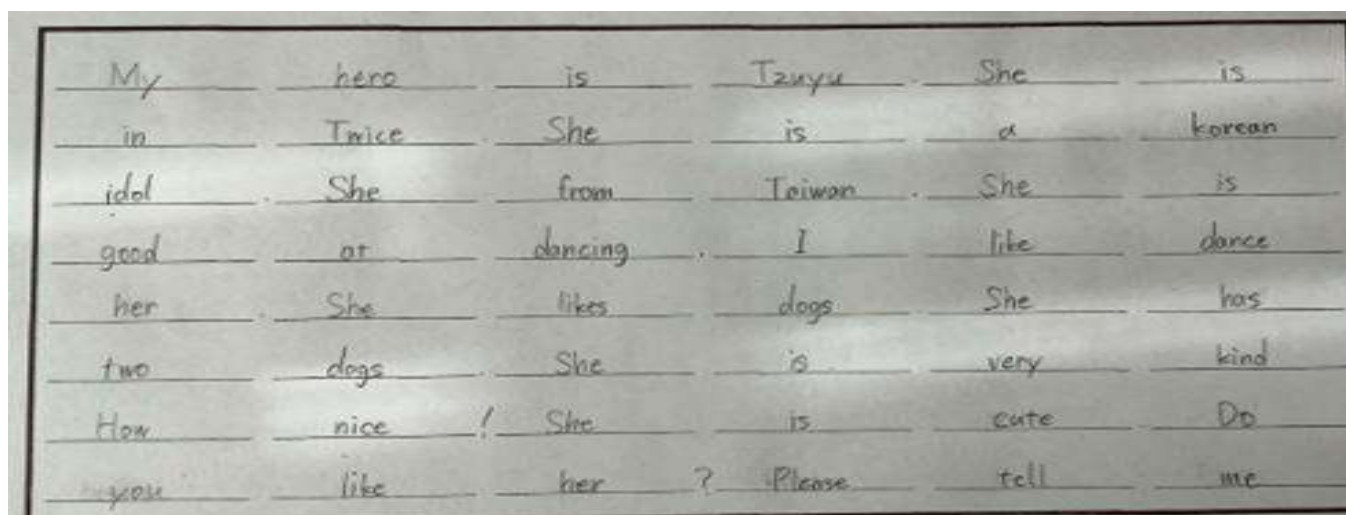
【抽出生徒 A の学習の経過】

「はじめ」



生徒 A が「はじめ」に書いた文章では、文量が多く、その人物の特徴が多く書かれている反面、書かれていることがその人物の特徴のみで、「自分の考えや気持ち」が書かれていない。また、思いつくことや書けることをただ並べただけで、話の流れに脈絡がなく、「まとまりのある」文章にはなっていなかった。

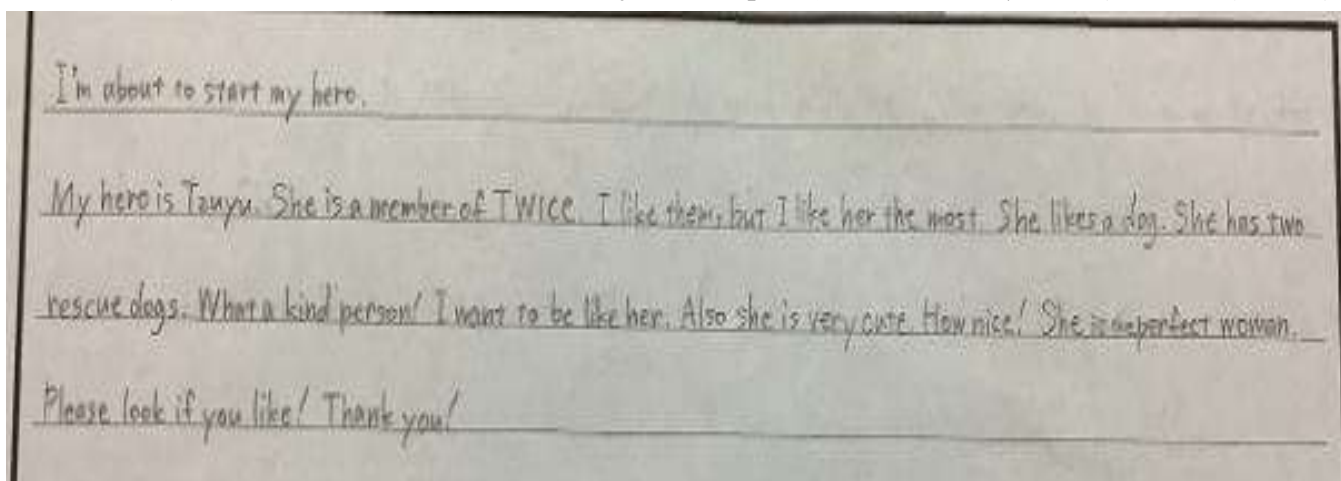
この文章を書いた後の振り返りでは、「簡単な紹介しかできなかつたと思うので憧れの人についてもっと詳しく書けたらいいなと思った」という記述があった。そのため、「自分の気持ちを表現するためにどのような工夫ができるか」、「その人物と自分自身との関連は何か」ということを意識して学習を進めるように、形成的な評価を生かして新たな視点を与えた。そうして書いた「中間」の文章が以下のものである。



単元で新たに学習した「感嘆文」を用いて自分の気持ちを表現したり、「その人物はダンスが得意」ということと「自分自身もダンスが好きである」ということを関連付けたりした内容にすることができた。

振り返りでも、「自分の考えを入れることができた」、「前回とは違った言葉で文章を書くことができた」と一定の手ごたえを感じたようである。

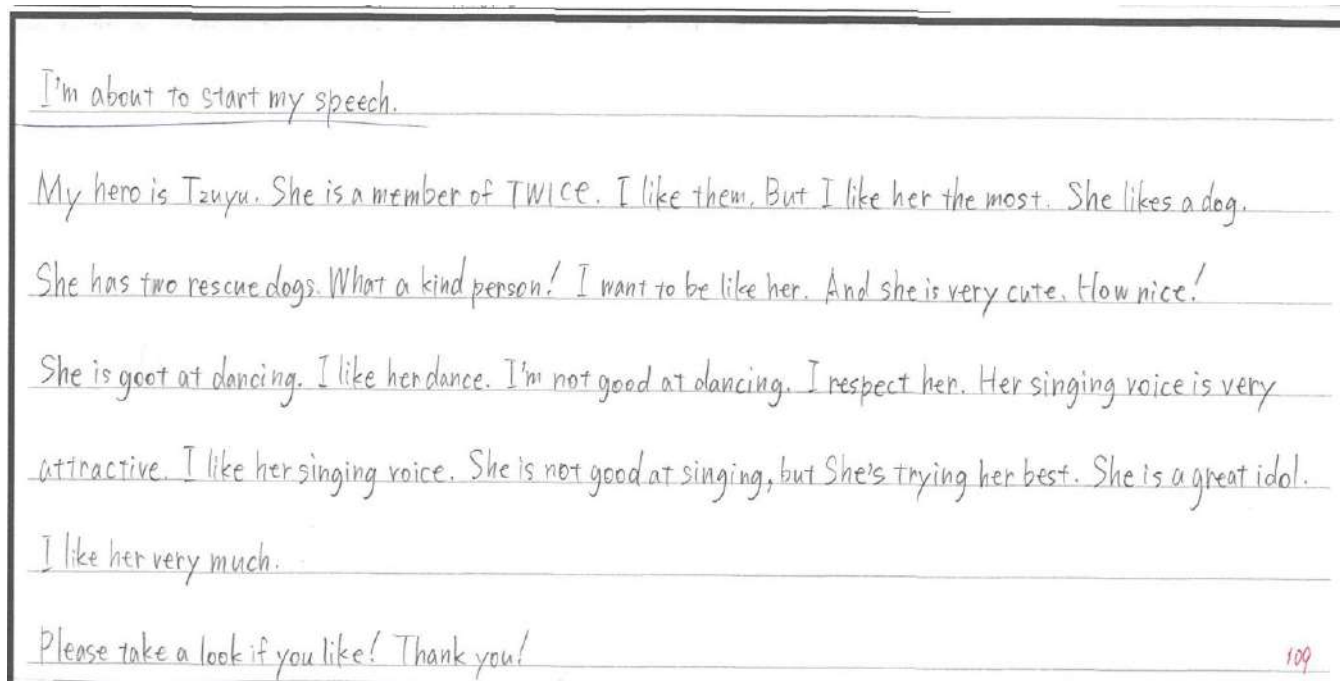
一方で、中盤以降の「犬を飼っている」や、「優しい」、「かわいい」という情報の羅列が、つながりの分かりにくい構成となっていた。「中間」を書いた後の生徒の反省として、「自分



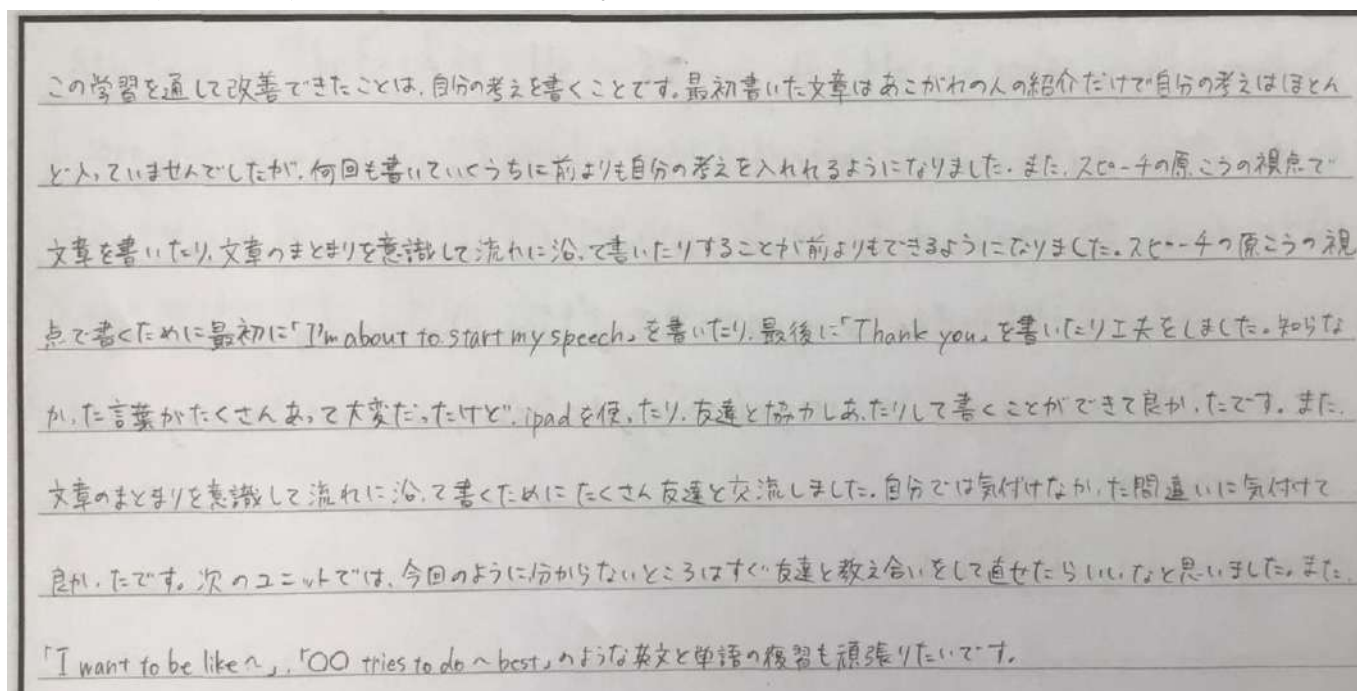
の考えの文をもっと入れられるように頑張りたい」という記述が見られたため、「新しく学習する表現を活用して、自分の気持ちを表現できないか」を考えさせると同時に、「つながりが分かりにくいところについて、読み手に伝わりやすいように具体的に書いてみる」ように促した。そうして書いた「終わり」の文章が以下のものである。

「犬」「優しい」という部分が「中間」の文章では、話の流れが分かりづらかったのが、「彼女は犬が好きである」に「彼女は2匹の保護犬を飼っている」と続き、「なんて優しいのだろう」と、単元で新たに学習した表現（感嘆文）を用いながら、つながりの分かりやすい文章に変容している。また、「I want to be like her.（彼女のようにになりたい）」と、「中間」の後に新しく学習した表現も用いて、文章の幅を広げていた。さらに、「場面設定」にも着目し、「英語スピーチの原稿」ということを想定して「I'm about to start my speech.（これからスピーチを始めます）」という表現を取り入れている。振り返りには「英語のスピーチの原稿を意識して加えたい言葉を調べることができた」と記述されていたことから、自由進度学習の中で自らが使いたいと考えた表現を調べ、取り入れることができたことが分かった。

「本番」で実際に書き上げた文章が以下のものである。



以下は、単元の最後の振り返りである。



単元で学習した表現を効果的に活用して、「自分の考えや気持ち」を分かりやすく表現している。また、基本情報を述べた後は、大きく3つの話題で構成されているが、「保護犬を飼うような優しい人で、自分もそうになりたい」や、「ダンスが得意で、不得意である自分は、その人のことを尊敬している」、「歌を歌うのが決して得意ではないが、ベストを尽くしていて素

晴らしいアイドルであり、そんな彼女が大好きだ」というように、話の流れに一貫性があり、非常に読みやすい文章となっている。また、文章の最初と最後に「スピーチ原稿」であることを想定した表現も取り入れることができていた。

〈課題〉

- ・毎時間で、学習を振り返る時間を設けたが、明確な振り返りの視点を与えることが不十分であった。そのため、「どんな点について振り返ればよいのか」や、「その日の学習の様子からどのような改善が必要なのか」について、自分で考え、学習を調整していくことに難しさを感じる生徒もいた。生徒の振り返りを価値付け、学級で紹介する中で、「仲間がどのような視点で振り返っているのか」を共有することが大切であると考えた。

(3) 個別最適な学び、協働的な学びについて

① 指導の個別化

〈成果〉

- ・単元を通して生徒が自らの学習状況に応じて、学習内容や形態を選択して活動ができるようにした。その際に、共有ドライブに既習事項や英作文に使えるような情報をまとめ、生徒が自由に引き出すことができるようにした。そのようにしたことで、生徒が自らの学習状況に応じて、主体的に学習に取り組み、資質・能力の向上につなげることができた。

〈課題〉

- ・ヒントを多数用意したが、どのように活用すればよいか分からない生徒もおり、効果的に活用されていない場面も見られた。また、共有ドライブ上のヒントを重視するあまり、教科書や授業で用いたワークシート等を参照する場面が少なく、活用場面が限定的なものとなってしまった。生徒が自身の学習を最適化するために、自分にとって必要な手立てを選択することができる「学び方」を、より具体的に指導する必要がある。
- ・生徒が学びを進める手立てとして、本学習では ICT を用いた単語や表現の検索だけではなく、予測変換や自動翻訳等の機能を用いることを可能とした。効果的に活用している生徒が多い一方で、一部の生徒は翻訳したものをそのまま自分の文章に流用する姿も見られた。その結果、自分の文章とならず資質・能力の定着が不十分な状態になってしまう状況が見られた。今後 ICT をどのように活用し、自身の資質・能力の向上に役立てていくかを、実際に学習の場面で体験させながら学んでいく必要がある。

② 学習の個性化

〈成果〉

- ・「自分が好きな人やあこがれの人」を自由に設定して、その人について書き続けたことから、高い学習意欲と向上心をもって学習課題に取り組むことができた。また、英文を書く対象を自由に選択できるようにした結果、単元の途中で書く対象を変えたり、生徒間で交流をする過程で文章に修正を加えたりする様子が見られた。

〈課題〉

- ・「どのような場面で書くのか」という「目的・場面・状況」の設定を導入で行ったが、多くの生徒にとって文章を書くことそのものが負担感のある活動となってしまった。そのため、「目的・場面・状況」まで意識して課題に取り組むことができる生徒が、一部の英語を得意とする生徒に限定されるものになってしまった。特定の生徒に限ったものではなく、全ての生徒が同じように意識できるよう、課題の難易度や設定について検討を重ねる必要がある。

③ 協働的な学び

〈成果〉

- ・それぞれの生徒が、「誰について」や「どんな場面設定で」書いているのかを共有することで、自分と近い人や場面で書いている生徒が把握しやすくなり、進んで交流しようとする意識が芽生えた。また、1単位時間の中間・終わりで他者が書いた文章を参照できるようにし、他の人の考えや取り組みを必要に応じて交流をしたり参考にしたりできるようにすることで、必要感のある交流場面を設定することができた。

〈課題〉

- ・なぜ交流するのか、交流の目的は何か、ということをし、しっかりと認識して学習活動に取り組んでいた生徒がいた一方で、単純に「分からないから教えてもらおう」といった生徒や、「仲の良い友達とずっと交流を続けている」というような生徒も見られた。単元を通した指導の中で、協働することの意義やよさを感じられるようにして、目標達成のために意味のある協働を、自ら進んで行えるようにする必要があった。